

予 算 要 求 資 料

令和7年度3月補正予算

支出科目 款：農林水產業費 項：畜產業費 目：畜産振興費

事業名 飛驒牛戦略推進強化事業費（国補正分）

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

振興課 飛驒牛銘柄推進室 銘柄推進係 電話番号：058-272-1111(内4138)

E-mail : c11437@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額

23,177 千円

(現計予算額 :

0 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	23,177	9,086	0	0	5,808	0	0	0	8,283
決定額	23,177	9,086	0	0	5,808	0	0	0	8,283

2 要求内容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

和牛日本一の称号となる最優秀枝肉賞の獲得を目標に、北海道大会（令和9年）に向けては、本年4月26日に「全国和牛能力共進会岐阜県戦略推進会議」が開催され、鹿児島大会の反省のもと、3つの基本方針が決定された。具体的には、①肉量を増加する飼料設計の見直し及び給与指導 ②長距離輸送対策の実施 ③次代の担い手へのサポート体制の充実であり、これらの取組みを飛驒牛関係者が一丸となって推進していくこととなった。なお、鹿児島大会に向け取り組んできた3つの戦略（①ゲノム育種価の活用による母牛・出品牛の選抜、②受精卵移植技術による候補牛の増産、③エコー・ゲノム診断技術の精度向上）も継続して実施する。

また、次々回大会（令和14年）が岐阜で開催されることが決定しており、今後の出品対策は北海道大会を通過点とし、最終目標を岐阜大会とした取組みが必要である。

(2) 事業内容

①畜産研究所が設計した子牛期育成飼料の有効性を検証するため、畜産研究所および県内畜産農家で実証試験を行う。多くのデータを収集することにより試験飼料の有効性の実証と正確性を向上する。

また、その結果を基にした子牛育成マニュアルを作成し、北海道大会に出品する候補牛の育成に活用する。

②公共牧場の牛を用いて、北海道大会の開催地である十勝まで牛を輸送し、牛にとってストレスの少ない輸送ルート、給水・給餌方法の検討を行う。

③全共出品および出品牛造成の主体である和牛改良組合・育種組合の強化を目的に、組合単位での全共強豪県への視察研修、先進的技術に関する研修会、先端技術を用いた優良繁殖雌牛増産に対する取組み等の活動に対して支援を実施する。

④ゲノム育種価、受精卵移植、エコー診断を活用し、出品牛の母牛の選定、出品候補牛の増産、出品牛の選抜を実施する。

(3) 県負担・補助率の考え方

先進的な取り組みを行うことから、県が実施する。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	1,100	会議、現地調査旅費
消耗品費	4,561	ゲノム育種価算出・脂肪酸測定用消耗品、事務用品等
飼料費	10	輸送試験用飼料
役務費	890	通信運搬費、脂肪酸測定装置メンテナンス
委託費	16,223	遺伝子型(SNP)解析、輸送試験
使用料及び貸借料	393	ETC使用料等
合計	23,177	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

全国和牛能力共進会北海道大会（令和9年）に向け、全国和牛能力共進会岐阜県戦略推進会議にて承認された取り組みの基本方針。

(2) 事業主体及びその妥当性

事業主体は県（畜産研究所、家畜保健衛生所）であるが、効率的、効果的かつ確実に期間内に実施するため、一部を専門性の高い団体等に委託する。

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

- ①全国和牛能力共進会北海道大会の出品候補牛の育成時期となる令和7年末までに、肉量を増加させる飼料の開発及び子牛育成マニュアルの改訂を行う。
- ②北海道大会での牛の出荷までに、ストレスの少なく肉量、肉質への影響が最小限となる輸送ルート、輸送前から輸送中における給餌方法を確立する。
- ③出品牛造成の基盤である和牛改良組合において、牛の能力が最大限発揮できる環境を整備する。
- ④岐阜大会まで、県内母牛全頭（約8000頭）のゲノム育種価評価を実施するとともにゲノム育種価精度、エコー診断技術を向上させ、出品牛の母牛、選抜に活用する。また、高能力母牛（60頭）から、R6年度12月までに採卵を実施する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R5年度 実績	R6年度 目標	R7年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

本事業は、次回大会に出品するための優秀な子牛を作出し、出品する工程の一部につき、成果指標にはなじまない。

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	
令和5年度	・関係機関と連携し、肉量を増加させる飼料を設計するとともに飼料給与試験を実施。
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
令和6年度	・関係機関と連携し、飼料給与試験を実施し、試験結果について検証した。 ・長距離輸送対策として、陸路主体、海路主体の2ルートにおける輸送環境を確認し、最適なルートを検証した。 ・畜産分野に従事する若手職員向けに研修会を開催し、技術向上を図った。 ・繁殖雌牛のゲノム育種価調査を実施し、高能力母牛を選抜するとともに、採卵を実施した。
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 3	全国和牛能力共進会北海道大会（令和9年）での最優秀枝肉賞獲得に向け、全国和牛能力共進会岐阜県戦略推進会議の基本方針に基づき取り組む。
-----------	--

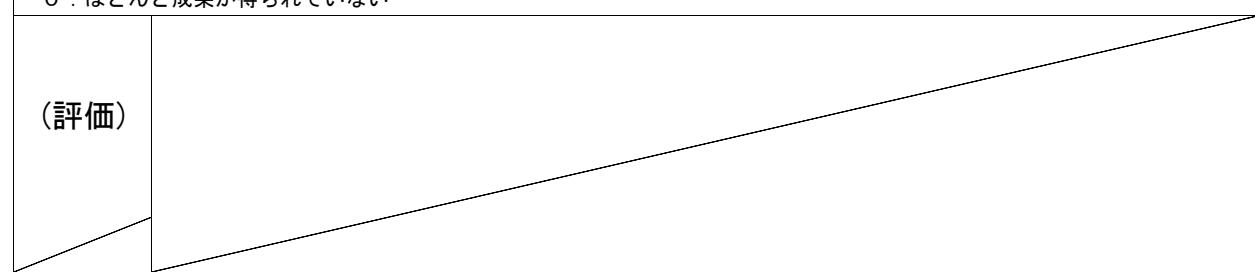
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)

3：期待以上の成果あり

2：期待どおりの成果あり

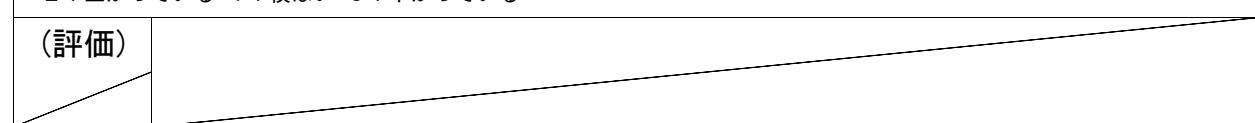
1：期待どおりの成果が得られていない

0：ほとんど成果が得られていない



・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)

2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている



(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会では、本県が出品した枝肉は、最優秀枝肉賞を受賞した枝肉と比較し、肉量（歩留）が劣っており、肉量の改善（増加）が求められている。また、ゲノム育種価をフル活用し、種牛（雄・雌）の改良速度をあげていく必要がある。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

次回北海道大会での日本一奪還に向けて、肉量の改善（増加）には継続して取り組むとともに、飛騨牛の特徴である肉質、脂質の維持・向上やゲノム育種価を活用した種牛づくりに取り組む。